

令和 8 年 7 月

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

岐阜県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
瑞穂市立西小学校	瑞穂市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
瑞穂市立西小学校	https://edu-mizuho.com/sunisi/page-11059/

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
瑞穂市立西小学校	https://edu-mizuho.com/sunisi/page-11121-2/	https://edu-mizuho.com/sunisi/page-11121-2/

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

☐ 一部、計画通り実施できていない

☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している

☐ 実施していない

＜特記事項＞

保護者及び地域住民に対して、年に1回公表会か研究発表会を実施したり、年に数回の授業参観を実施したりすることで、瑞穂市が特別の教育課程を実施していることを知ってもらい、共に考えることができる場を設定している。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

瑞穂市では、外国人児童生徒が毎年増加傾向になっており、言語も多様化している。本校でも外国人児童が在籍している。このような中で、文化や言語の違いを乗り越えて、どの児童も、グローバルな視野をもち、楽しく学校生活を送ることができるようにしていくために、互いを尊重し合うことが大切である。

そのために、コミュニケーションツールの一つとなる英語を用いた対話を、低学年の段階から導入している。低学年では、色や数、果物、動物などの身近な事柄について英語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。

特に、音声面を中心に取り組むことで、自分が話した英語が相手に伝わった喜びや、相手の英語を聞き取ることができ、他者理解をすることができた嬉しさを味わうことで、児童が楽しく英語学習に取り組み、進んでコミュニケーションをとる姿が多くみられるようになっている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本特例では1・2年生が年間25時間の外国語活動の授業、3・4年生が年間35時間の外国語科の授業、5・6年生が年間70時間の外国語科の授業を行っている。

外国語（英語）を通して、言語や文化に関する体験的に理解を深め、自分の考えや思いを英語で伝えながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとすることができる児童の育成は、主体的に人や社会と関わり、自己を表現し、他者と共感するなど、互いを尊重しようとする態度につながると考える。

したがって、小学校の6年間だけでなく、義務教育9年間を見通して、そのような態度や能力を伸ばしながら、創造性を培い、自主及び自立の精神をどのように育成していくかを考えていかななくてはならない。

4. 課題の改善のための取組の方向性

1～4年生までは「聞く」「話す」活動が中心であったが、高学年になると「読む」「書く」といった活動が入ることによって、苦手意識をもつ児童も増えてくる。

まずは、低学年で自分の気持ちや考えなどを伝え合う「素地」を養い、高学年では「基礎的な力」を養うことを念頭に置き、さらに中学校への接続が順調にいくように、「英語で自分のことが伝えられて嬉しいな」「相手の話す英語がわかったよ」という、多くの成功体験を積ませることが、小学校での英語学習で大切であると考えます。